

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900769
法人名	有限会社ケアサポートいずみ
事業所名	グループホームいずみ
所在地	北宇和郡鬼北町大字永野市989番地1
自己評価作成日	平成21年11月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・ 季節により、遠出する回数が多い。
- ・ 個人を尊重して、過ごせるようにしている。
- ・ 利用者様と作った新鮮な野菜や家族に頂いたお魚を食材に使用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

散歩時に近所の方と声を掛け合ったり、ホーム前のガソリンスタンドの方達が利用者の外出を見守ってくれている。畑の手入れは、近くに住む男性お二人が責任をもって管理してくださっている。地区の民生委員の方の見学もあり、グループホームを知っていただき、利用者とは和やかな時間を過ごされた。

介護計画や利用者の状態等についての話し合いは、個別に相談室で行っておられる。ご家族のご家庭の事情等もじっくり聞き、ご本人を支えていけるような対応策と一緒に検討されている。

調査訪問時、目の不自由な利用者の方に、さりげなく食器を置き換えメニューを案内されていた。トイレ誘導の際には、トイレの扉は必ず閉める事に心がけていたり、ペーパータオルを間違えて食べてしまわないようにケースにカバーを掛けてペーパーが見えないような工夫をする等、環境に配慮してご本人のプライバシー等を守るようにも取り組んでおられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームいずみ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

鬼塚 礼子

評価完了日

平成 21年 11月 13日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者と職員は理念について話し合いの場を設け共有し実践につなげて言っている。 (外部評価) すべての職員で話し合い「利用者様との信頼関係を築いて、安心しましょう」「お互いの笑顔を見て、安心しましょう」「利用者様が安心して過ごせる自由の場を作りましょう」と事業所の理念を作り、日々職員で共有して取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事に参加したり病院への通院・買い物同行・散歩・散策など人との出会うの場所へ出向き、世間話や近況報告が出来ている。 (外部評価) 散歩時に近所の方と声を掛け合ったり、ホーム前のガソリンスタンドの方達が利用者の外出を見守もってくれている。地区の敬老会に出席した際には、小学生からお祝いのお手紙をもらい喜ばれた。事業所で行った敬老会では、地域のボランティアの人達が、歌や踊りを披露してくださったり、利用者も一緒に「炭坑節」を踊り、楽しいひとときを過ごされた。畑の手入れは、近くに住む男性お二人が責任をもって管理してくださっている。地区の民生委員の方の見学もあり、グループホームを知っていただき、利用者とは和やかな時間を過ごされた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 周囲に認知症予備軍の方々がおられ日常の関わりや症状による対応・資源の活用についてつたえを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>二ヶ月に一回地域の方々、また行政の職員を交えた会議を行っている。新たな情報・要望を交換する事が出来サービスの提供に役立っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議には、協力病院の医師、町会議員、民生委員、老人会長、家族代表、利用者代表等、多くの方々に出席をいただき、新型インフルエンザ等の感染症への対応や防災について等、情報交換をされている。事業所の活動報告をされたり、ホームに遊びに来ていただけるよう、地域の方達への呼びかけもお願いされている。</p>	<p>事業所では、運営推進会議を通してさらに地域の方々とのつながりを広げ、深めたいと考えておられる。会議のすすめ方や議題等、工夫できる点はないか話し合い、参加しやすく、意見を出してもらいやすいような会議に向けて、今後も工夫を重ねていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議には行政の方には必ず出席していただいている。また、職員研修や利用者様の健康・介護保険で連携をとりサービス向上に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議に参加いただき、介護保険の説明や、要介護認定について等、説明いただいたり、地域包括支援センターの担当者から研修を案内いただいたり「地域でどう高齢者を支えるか」等について話していただいた。</p>	<p></p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>施錠は夜間のみ防犯の意味にて行っている。拘束はベット柵のみ転倒予防・本人希望により行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関、ウッドデッキから利用者が自由に散歩に出かけたり、お花畑や野菜畑に出ておられる。現在、ご本人の希望で、立ち上がり時の手すりや転落防止のために、ベット柵を1本のみ使用されている。</p>	<p>さらに、この機会を全ての職員で「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について、理解を深めるような機会にされてはどうだろうか。身体拘束について正しく理解することでケアの工夫や配慮等への気付きにつなげていかれてはどうだろうか。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会にて虐待の意味を学び絶対にあってはならないと認識・理解している。また常々職員間でケアについての振り返りを行い確認をしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修を行っているが、今現在制度を必要としている人がいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事業所の契約・重要事項説明書にうちて、入所時に説明を行っている。不安や疑問があれば来訪時説明をしている。改定がある場合は家族会で説明を行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 二ヶ月に一回家族会を開催し個別並びに全体を通して意見を聞きできるだけ要望が実現できるように早い段階で話し合いが持たれ実行されている。 (外部評価) 家族会では、事業所の行事や金銭管理について、又、利用者の暮らしぶり等も報告されている。又、介護計画や利用者の状態等についての話し合いは、個別に相談室で行っておられる。ご家族のご家庭の事情等もじっくり聞き、ご本人を支えていけるような対応策と一緒に検討されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に対して所長・管理者より説明を聞く機会がある。また職員より効果的な意見を提供し、それが繁栄されていることも多い。 (外部評価) 年の初めには、職員個々に今年目標を立てるようになっており、半年後には代表者、管理者と目標の評価を話し合っておられる。職員は、排泄支援や入浴介助について等、まずは試してみることを大切にされている。事業所では、職員が外部研修を受講できるよう取り組みをすすめておられ、法人が費用面でも協力されている。職員は「こだわり入浴セミナー」を受講され、指先に力の入りにくい利用者の洗髪の介助や、利用者の満足度のいくような入浴介助について学ばれ、職員間でも共有して支援に取り組んでおられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務状況の曖昧性が見えていたところもあったが個別対応・職業人としての姿勢・厳しさそれに伴う仕事に対する喜びの諸条件を整えつつある。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常に職員の心身の状態を把握し無理のないようにしている。また日頃より自己研鑽の機会を持つように費用を含め研修の機会を提供をしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域におけるグループホーム間の交流の機会を行政より場を設けていただきましたが一部の事業所より参加しないとの回答があり中止になっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 知り得た情報と個人との関わりの時間を長く作りその人のニーズを理解し支援の糸口になるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所前の経緯を理解し受容したうえで、今後のホームに対する要望・期待を傾聴し対応している。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所する前に何度か自宅へ訪問し利用者様の様子や家族の希望などで聞いていた。最近入所された方は、独居生活像が不明瞭であったため、現在家族支援している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人に出来る役割を見出されるよう施設内の清掃、戸外の草引き買い物など少しの時間でも共に行動が取れるよう働きかけをしている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>来訪時に家族の思いや現状を傾聴し本人の様子や残存能力を伝え「家族は大切な存在」であることを確認している。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者様が町内の人が多く、外出した際馴染みの人に出会うことが多いため、再開時に声掛けが出来るよう名前を覚えられるようなコミュニケーションを図っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>お花の先生をされていた利用者のもとには、現在も生徒さんが訪れており、玄関には毎週新しい生け花を生けてくださっている。近くのお店に買い物に行かれた際に、知り合いの方に会うことも多く、ドライブ時にご自宅近くを通ったり、お友達や近所の方が来られた際には、一緒に買い物に出かけるようなこともある。又、ご家族と一緒に、散髪に出かけ、ご自宅に立ち寄り外食して帰ることもある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個人の時間を大切にしながらも孤立しないように関わり、仲の良い関係性が更に向上するよう外出の際や役割を提供する時声掛けを行っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後でも近くに来たからといって、立ち寄ってもらうことがある。また、買い物などでであったときなど近況を報告してもらえることがあったり、利用者様に話しかけていただいたりしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 帰宅願望がある利用者様には、一緒に行動を共にすることで落ち着かれている。また、ドライブなどで自宅近くに行った場合など立ち寄っている。 (外部評価) センター方式を用いて、職員は「利用者の今までの生活歴や、家での過ごし方等を聞きながら」事業所での暮らし方の希望等の把握に努めておられる。困難な場合は日々のかかわりの中で、出来ること、出来そうなこと等を探り支援につなげたり、「息子や孫に会いたい」「私の出来ることを支援してもらいたい」「元気に暮らしたい」等、それぞれの思いを支えていけるよう、ご家族にも協力をいただきながら努力されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、生活歴や馴染みの暮らし方などを知り、把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の性格、健康状態、家事能力を把握し「出来る能力」の支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月1回のミーティング、及び日々の心身の変化を検討し、ケアプランを作成している。また、家族会においてケアプランの説明を行い要望も踏まえ、必要に応じプランの再立案する。</p> <p>(外部評価) ミーティング時、職員で「一人ひとりのニーズ」について話し合い、ご本人ご家族の希望や意見も採り入れ、計画を作成されている。2ヶ月毎に計画の見直しをされ、利用者個々の希望や病状等も踏まえて、現状に即した計画を作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) センター方式の記録に基づき、焦点譲歩をとらえ、根拠づけをしながら気分の変化、行動の変化を記録している。また、記録の見直しを行いプラン修正を行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体状況に変化があり、急な対応が必要である利用者に対して、種々のサービスを行っている。夜間の病院通院、気分を変えるためのドライブ等。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域に資源があっても「豊かな暮らしを楽しむ」までに至る提供とはなっていない。時々行事参加、ボランティアの人々の参加を依頼する程度となっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	かかりつけ医には定期受診を行い利用者様の状態につ いて報告をしている。また必要に応じて歯科・眼科・ 精神科への受診支援も行っている。	
			(外部評価)		
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	介護職員は日々気づいたこと、身体状態の変化につ いて看護職員に報告・相談を行っている。	
			(外部評価)		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	入院した場合面会を行い状況確認を行っている。病院 関係者と情報交換や相談する機会を取っている。	
			(外部評価)		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	入所時に看取り介護について説明し同意を得ているが 利用者様の重度化を確認した場合は家族と蜜に話し合 い対応している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急救命法について研修を行っている。初期対応の訓練は行っているが定期的ではない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導を受け火災に対する訓練を行っている。しかし、地震・水害についての対策や訓練を受けるまでには至っていない。 (外部評価) 職員は「防災管理者」講習を受講され、防火カーテンや玄関にはセンサー付きのライトを取り付けられた。毎月、自主避難訓練に取り組み、訓練の際には利用者から「私は、この人を助ける」と申し出もあり、利用者も協力して安全と安心に向けて取り組まれている。地域の方々への協力依頼もされている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人格を尊重し言葉遣い・名前の呼び方などに注意している。 (外部評価) 職員は、利用者のプライドを傷つけないよう言葉や対応に気を付けておられる。調査訪問時、目の不自由な利用者の方に、さりげなく食器を置き換えメニューを案内されていた。トイレ誘導の際には、トイレの扉は必ず閉める事に心がけていたり、ペーパータオルを間違えて食べてしまわないようにケースにカバーを掛けてペーパーが見えないような工夫をする等、環境に配慮してご本人のプライバシー等を守るようにも取り組んでおられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様に合わせて声掛けを行い要望に添えれるよう努めている。また、自己決定できる場を設けたり表出できるよう関わっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			居室で過ごしたい方、戸外へ出たい方・リビングで過ごしたい方に関われるよう業務優先にならないよう一人ひとりゆとりを持って支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	
			身だしなみについてその時々において声掛けをし支援している。おしゃれについてカラーリング・散髪・化粧・ネイルケアを希望時に行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			スタッフと共に料理の下準備や味を見てもらっている。配膳や後片付け・お盆拭きなど声掛けをし行っている。	
			(外部評価)	利用者が味みをされたり、盛り付け等をされている。調査訪問時、ご自分でご飯をよそったり、好みでソースをかけている様子うかがえた。又、職員は、利用者一人ひとりに「ご飯がいいですか？お粥がいいですか？」と聞き、選んでもらったり、お茶のお代わりも聞いておられた。下膳やテーブルを拭いておられる利用者もあつた。畑で採れた野菜は利用者に聞きながら調理されたり、トマトはおやつにすることもある。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	
			状態に合わせた食事内容とし形態・量・時間を考慮し支援している。また慢性疾患のある利用者様については主治医と相談しながら食事提供を行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	
			口腔ケアの有無を知るためのボードを活用し職員がそれを見ることで毎食後利用者様に声掛け見守りを行っている。介助を要する利用者様には傍に立ち一部介助を行っている。週一回ポリデントを使用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターン・不快状況を把握し紙オムツから紙パンツ、紙パンツから布パンツに移行しトイレ誘導・介助を行っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの状態を見ながらオムツから紙パンツへ、紙パンツから布パンツへと自立に向けての取り組みをされている。昼間は、出来る限りトイレでの排泄できるよう、職員は声掛けして誘導されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品や果物を多く取れるよう配慮したり適度な運動を取り入れている。それでも便秘症の方は緩下剤を使用し記録と状態の観察を行っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日の設定を行っているが希望があれば入浴できるようにしている。一人ひとりの支援を充実させるためにゆったりとした時間を過ごせるよう支援している。 (外部評価) 1日おきに入浴するようになっているが、ご本人の希望で毎日入浴出来るようになっている。お一人で入浴される方には使用中の札を掛け、安心してゆっくりと入浴出来るようにされている。入浴を嫌がる方には、午前中声掛け、午後にも声掛けされる等、時間やタイミングを見ながら支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの時間の過ごし方に配慮している。昼夜逆転の利用者様には日中の活動を促し生活のリズムを整えるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤情報をカルテに挟み職員が内容を把握できるようにしている。変更や追加があった場合は申し送りノートや介護記録・日誌などに記載している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) スタッフと共に清掃・洗濯物干し・花の水やり・洗濯物タタミなど日課に取り入れ気分転換を図っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の人々の協力を得る機会が少ないが買い物や散歩・遠出に出る機会を多く設けている。	
			(外部評価) 毎日お一人で散歩されている方もあり、地域の人達も見守ってくださっている。花壇や畑を見にいかれたり、ウッドデッキに出て、外気に触れることも大事に支援されている。季節に応じてお花を見に出かけたり、地域の行事等にも出かけておられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお金を所持しているのは一人のみである。個人で管理することが難しい利用者様には希望に応じて一緒に買い物したり支払を行っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じ電話連絡を行ったり郵送の支援を行っている。また家族からの電話を取り次いだり手紙を手渡ししたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間には四季折々のディスプレイや生花を置き季節感が理解できるよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間の天窓からは廊下の洗面所に向けて自然の光が入り、廊下には空気清浄機が置かれていた。玄関にはホーム便りや行事時の写真等が貼ってあり、ご家族が来られた際に見てもらえるようになっている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>全個室で一人ひとりのプライバシーを守り且つ共用空間もリビングやウッドデッキにベンチやソファを置き馴染みの人同士が座れる場所が確保されている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様の馴染みのあるタンスやテーブルなど居室で過ごしやすいよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>大きな木の植木鉢を置いておられたり、お位牌やテレビ、衣装ケース等も持ち込まれていた。米寿のお祝いの赤い座布団や卒寿のお祝いの色紙等もあり、お孫さんからの手紙や、地域の小学生からの（敬老の日）手紙、息子さんと一緒にの写真等も飾ってあった。明るさを嫌われる方には日中も窓にカーテンをされていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様の残存機能を活かせるよう見守りながら介助し状況に合わせて行っている。</p>	